

徳島大学の学生パワー

秋号恒例の特集となりました『学生パワー』。あるときは研究室で、あるときはキャンパスを飛び出して活躍する徳大生。今年は各分野で活躍する学生主体のグループを紹介しします。[取材]

めざせ！ロボコン

創成学習開発センター ロボコン・プロジェクト

小さいころ、テレビで見た大学ロボコン（ロボット・コンテスト）への参加を夢見たチームリーダーの飯田裕介[工学部知能情報工学科2年]さんは、徳大へ入学して創成学習開発センターの存在を知り、さっそく行動を開始。手作りのポスターを貼りだしスタッフを募集し、昨年9月にプロジェクトチームを立ち上げました。

しかし大学ロボコンはかなりレベルの高いものです。いきなりの挑戦は難しいだろうと考えていたとき、同センターが交流している和歌山大学の学生自主創造科学センター（通称クリエ）との報告会に参加する機会を得ました。

そこで和歌山大のロボコン・チームから『レスキューロボットコンテスト』のことを教えてもらいました。同ロボコンは、阪神淡路大震災をきっかけに、救命救助機器の技術的な向上や拡充をはかるための一つ的手段として開催されているもので、今年で8回目となりました。

まずはこのコンテストに参加を決め、年末までに11名の仲間を集め、今年7月の予選を目指してスタート。しかし何もかも初めての経験である上に、準備期間もわずか半年間。ロボットを完成させるだけでもやっとなという飯田さんたちに比べて、他の

チームは何度も出場していて経験もあり、しかも過去のロボットに改良を加えてレベルアップしているという、ハンデを背負っての出場。健闘したものの予選落ちしてしまいました。

そこで学んだことや参加の経験は、来年のコンテストへのさらなる決意となりました。「来年は必ず予選を通過して、再来年には最終目標のロボコンを目指せるまでにレベルアップして夢をかなえたいです」

と、飯田さん。最後に彼から読者の皆さんへのお願いがあります。まずは先輩の卒業によって減るスタッフの補充です。新たなやる気のある仲間を募集しています。また経済的な支援を同センターから受けていますが、まだまだ厳しいので応援してもらえるスポンサーも募集中です。

また飯田さんたちが卒業しても、このプロジェクトが存続して、さらなるチャレンジャーとなることも望めます。



地域医療の現場から学ぶこと

地域医療研究会

医師や看護師・介護士などの不足、そのことによる職場環境の厳しさが問題となっている昨今、大学の医学部には大きな期待がかけられています。

徳島県が全国の医学生に呼びかけて実施している体験型「夏期地域医療研修」。大学で学ぶ間に、地域医療の現状を知ってもらおうというものです。昨年、徳島大学も他大学生と一緒に、上勝町など三カ所に分かれての研修に参加しました。

担当の谷憲治教授の提案によって、その時参加した人を中心にサークル「地域医療研究会」が誕生しました。部員は約30名。

「山奥の小さな診療所だと一人の医師が何でも診なければならぬし、往診にも連れて行ってもらいましたが、移動に時間がかかるのでたくさんの人を診ることもできません。患者さんの話も親身になって聞いてあげたり、夜中でも急患に応じたりと、ほんとうに大変だなと感じました」

と、部長の兵頭沙梨[ひょうどうさり・医学部医学科4年]さん。

同会では結成以来、月に一、二度県内の地域に密着した病院の見学を行い、地域医療の現状などを学んでいます。

今年4月には、大学病院から谷先生をはじめとする医師を派遣している県立海部病院や宍喰診療所（海陽町）、介護施設などでの一泊研修に参加しました。海部病院では、一人の患者さんの受付から診察が終わるまでをお世話をするエスコート実習も体験。

「患者さんの背景(生活)までも含めて診ることが要求されます。医師として期待されているということを感じましたが、将来この仕事に全てをかけて飛び込んでいけるか、いろいろな経験を通して考えていきたいです」

また副部長の万野朱美[まんのあけみ・医学部医学科4年]さんも、「どこで働いても(医療は)大変な仕事だと思いますが、研究会で学んだことを将来に生かしたいし、少しでも多くの人に知らせていきたいです」

と。大学で学ぶことと現場での現実とのギャップを感じながらも、研究会の活動は自分の将来への大きなステップとなっているようです。



常三島キャンパスを快適にする

徳大オープンスペースプロジェクト

徳島大学オープンスペースプロジェクトのHP
<http://www.ncc-1701.jp/top/>

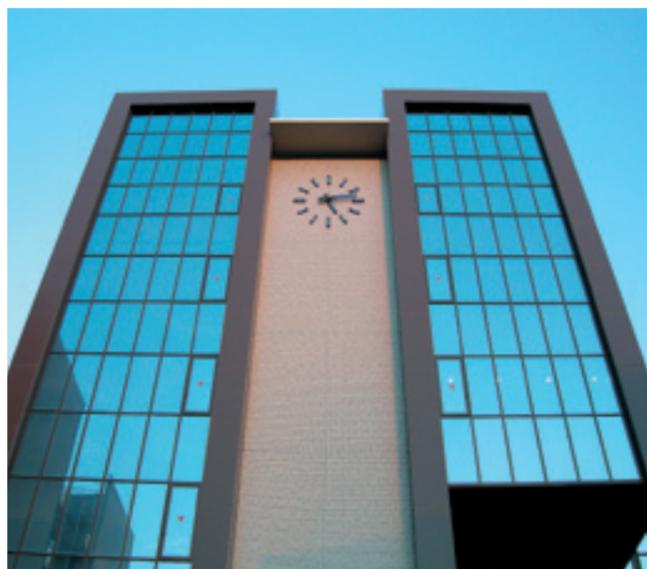
例えば東京大学の赤門や三四郎池、早稲田大学の大隈講堂の時計塔、北海道大学のポプラ並木など、有名な大学の多くがキャンパスの顔や特徴を持っています。

現在、徳島大学常三島キャンパスでは建物を中心に再整備が進んでいますが、「キャンパスの顔がない」「憩える場所がない」などの意見があります。その反面、使われていないオープンスペース（建物以外の空間）が多く見受けられます。そこで昨年1月、学生が主体となってキャンパス内における問題の総合的な把握と、オープンスペースを有効活用した問題解決方針を提案するという、全国的にも先進的な取り組みとして、徳大オープンスペースプロジェクトはスタートしました。

メンバーは総合科学、工学の両学部から募り、現在は建設工学科の学生を中心に15名。さらにアドバイザーとして教員や地元の建築家が参加しています。

昨年度は、キャンパスの現状を把握するためのウォーキング調査を行い、キャンパス全体の模型を作りました。模型を作ることで様々な課題や問題点が立体的に見えてきました。そして、ビジョンマップを作成するワークショップを行い、提案を大学祭で展示するために模型を作成しました。その模型は現在、共通講義棟の1階ロビーに展示されています。

大学祭での提案は、「共通講義棟から総科中央通をLED



時計が見通せるシンボリストリート（広場・歩道）にする」、「キャンパスの南西部にキャンパスを見渡せる丘をつくる」「新しい正門をつくる」「古い煙突のあるボイラー室周辺を広場ににする」の大きく4つ。

本年度、この提案に対するアンケートをおこない、1385もの回答を得ました。この結果をふまえ、案の改良や具体化を行っています。まず手始めに、創立60周年記念事業としてLED時計のある共通講義棟から西に向かって伸びるように計画したシンボリストリートが整備されることになりました。

現在、メンバーは一丸となって、来秋のシンボリストリート完成をめざし、詳細デザインの話し合いを重ねています。

代表の長井愛子さんと板東ゆかりさん(共に建設工学科4年)は、「新しいメンバーを募集中です。特に他学部学科の方、大歓迎です。今なら実際に整備されるシンボリストリートのデザインに、自分の意見が反映されます」と、参加を呼びかけています。あなた自身の手でキャンパスを変えてみたい方、どうでしょうか？



楽しく質の高い授業を学生の立場から考える

教育の質を向上させるための学生ワーキンググループ

キャンパスのデザインを考える「オープンスペースプロジェクト」に対して、こちらは学生の本分である「授業」を学生の立場から考えようというのがこの学生ワーキンググループ(以下学生WGと略)です。徳島大学では、大学開放実践センターの高等教育支援研究開発部門を中心に、平成14年度より「全学FD(Faculty Development)推進プログラム」を実施しています。しかし教員だけの取り組みでは授業を受ける学生の意見や感想は反映されません。

そこで学生と教員の思いをぶつけ合い、その中から授業のあり方や内容の新しい方向性を見いだしていこうというのがこのプロジェクトの主旨です。メンバーには希望者を含め、常三島の各学部学科から推薦された学生と各学部の代表教員等です。

活動は二ヶ月に一度「学生ワーキンググループ・ミーティン

グ」を開催したり、他大学との交流など幅広く行っています。本年は、岡山大学主催の「i☆See2008」へ参加しました。これは全国から学生が集まり、意見交換を通じて大学教育改善の提案をまとめるイベントです。

ミーティングでは、授業評価アンケート(教員へのフィードバックの内容を学生WGへ紹介していく)や学生の考える授業、受動型から能動型に変える授業、教員と地域の社会人による共同の講義など、多角的に多くの意見が出ています。また多くの学生からの意見を聞くためにキャンパス内各所に「目安箱」を設置しています。その中で提案が実現して今年より開講されている授業もあります。授業科目は「学生と地域社会人による授業企画ゼミ-大学でなにを学ぶのか?」(共創型学習)です。

学生WGの世話人を務める齊藤隆仁先生(総合科学部准教授)は、

「WGは大学の機関の一つとして設置されたのですが、学生自身が考えを提案して実行していくものです。多くの学生に積極的に参加してもらって、どんどん意見を出してほしいですね」と呼びかけています。またメンバーの一人、森本佳世子さん(自然システム学科2年)は、

「自分たちの受ける授業に対して意識が低く、無関心な人が多いように思います」

と。同じくメンバーの的場一将さん(人間社会学科2年)は、「最初は何をしていいかわからなかったけど、先輩たちの活動を見よう見まねでやっているうちに、自分たちで何かを創っていきたいと思うようになりました」

と、参加することでさらに大学生活が充実した実感を語ってくれました。

現在、学生WGでは、新入生のオリエンテーリングで全学共通授業を紹介するビデオを制作中です。口頭説明やパンフレットなどより視覚によってより具体的に理解してもらうためのもの、メンバー自身の経験も生かした手作りのビデオになる予定で、来春のオリエンテーションで封切りとなる予定です。

